



TITLE:

資料紹介:外国図書大型コレクションについて ""Archivio storico italiano""

AUTHOR(S):

CITATION:

資料紹介:外国図書大型コレクションについて ""Archivio storico italiano"". 静脩 1979, 16(1): 4-4

ISSUE DATE:

1979-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36841>

RIGHT:

外国図書大型コレクションについて

このたび、文部省より昭和53年度の全国共同利用外国図書購入費の配分を受け、下記資料を購入いたしました。

ついては、学内・外の研究者の共同利用に供するため、これらは、附属図書館とセンターに蔵置していますので、御利用くださるよう御紹介いたします。

“Archivio storico italiano”

Giovan Pietro Viusseux (1779-1863) はフィレンツェの学識ある書籍業者で、すでに19世紀初期から学術雑誌出版の経験もあって当時のフィレンツェの出版界ではかなり有力な人であったようである。折しもリソルジメント運動のもり上った最中で彼は祖国愛と学術研究への情熱をいだいて1841年には“イタリア史未刊行資料とイタリア史関係の貴重な文献を収録すること”に重点をおいて、史学雑誌の編集を企画した。幸い当時の優秀な政治家であり歴史家でもあった Gino Capponi (1792-1876) の協力を得て特に中世史に関する文献を主体に編集して1842年に“Archivio storico italiano”の創刊号を刊行することが出来た。そして彼の史料編纂に打込む熱意に誘われて当時のヨーロッパの一流学者達の寄稿も多くなってきた。1855年以後はニューシリーズとしてその内容も：歴史的資料、個人的記録、書評、ビブリオグラフィ、と云うようにより充実した構成になって編集方針にも一段と発展を示してきた。

1864年に G. P. Viusseux が他界してからは R. Deputazione di storia patria per le provincie della Toscana, dell' Umbria e delle Marche, (現在は Deputazione toscana di storia patria) の機関誌となった。そして1925年

以来本誌にふさわしく書誌学的知識をそなえることによって高評のフィレンツェの出版社 Olschki 社で発行、現在に至っている。(途中1940~43年はフィレンツェの Bibliopolis 社で発行) こうして実に百数十年にわたる永い刊行歴を持ってその伝統を維持しているが、その間たえず各時代の著名な史学者、文学者、政治家による論文を発表してきた。寄稿者の名を部分的に思い出してみても Michele Amari, Alessandro D'Ancona, Cesare Cantù, Gino Capponi, Niccolò Tommaseo 等である。多くの歴史的新学説と輝かしい業績をもってイタリア史学研究に貢献することの絶大な本誌はこの分野の学術雑誌中最も権威あるものと評価されている。なお1842年から1941年までに刊行した資料の総索引全3巻が1947年に出版され非常に便利である。

今回の購入は創刊号(1842年)から1977年までのいわゆるバックナンバーで附属図書館に備付けられるが、以後は文学部で購入している。本誌はイタリア史研究者のみならずヨーロッパ史特に中世史の研究は欠かすことの出来ない基本的資料であって、経済史、法制史、文化史の文献も網羅しているので広範囲の研究者に裨益し得ることを期待している。

Verhandlungen des Deutschen Reichstages 1867-1933

(ドイツ帝国議会議事録、1867-1933)

統一国家建設からナチス政権成立までのドイツ帝国議会議事録であり、第二帝政にはじまり第一次大戦を経て、ワイマール体制の成立と崩壊に至

るドイツ近代史の動きを伝える基本的な一次資料である。

近年、ドイツ近・現代史の研究にはいちぢるし